

オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ウリノメイガの発生が増加しています。今後、被害が予想されますので防除を実施しましょう。

現在の状況

- 1 基準圃場（北上市成田）に設置しているオオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数が、7月第2半旬から増加し、以降高い水準で推移している（図1）。
- 2 基準圃場（北上市成田）に設置しているハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が、8月第4半旬に大きく増加している（図2）。
- 3 8月下旬のきゅうり巡回調査（8月19～23日）において、ウリノメイガ（ワタヘリクロノメイガ）による被害がすべての圃場で確認され（平成発生圃場率11.5%）、発生程度の高い圃場も多かった（図3）。
- 4 オオタバコガおよびハスモンヨトウは広食性害虫であるため、今後、多くの作物で被害が発生する可能性がある。
- 5 9月の平均気温は平成より高い予報で、今後も発生に好適な条件となり被害が増加する可能性がある。

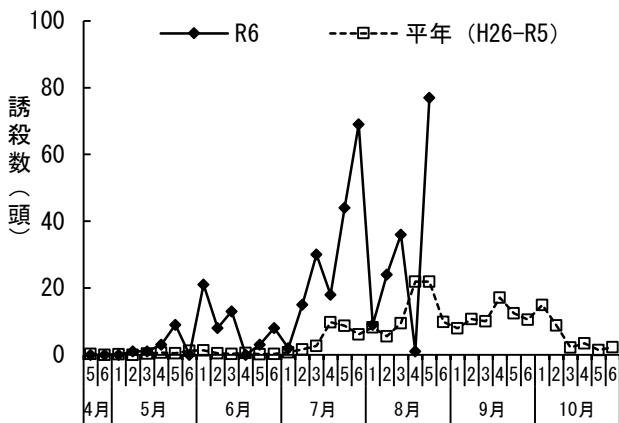


図1 基準圃場（北上市成田）におけるオオタバコガの誘殺状況

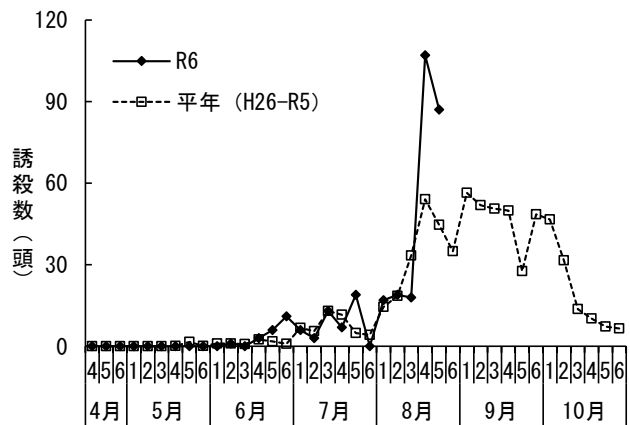


図2 基準圃場（北上市成田）におけるハスモンヨトウの誘殺状況

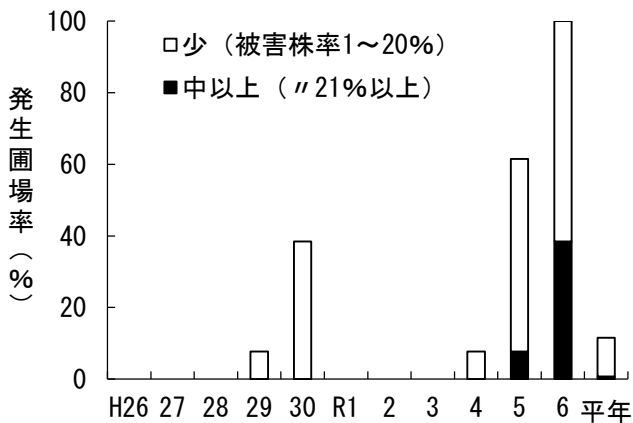


図3 ウリノメイガの発生圃場率の年次推移（8月下旬）



写真1 オオタバコガ (左：花を食害する若齢幼虫、中央：幼虫、右：成虫)



写真2 ハスモンヨトウの幼虫



写真3 ウリノメイガ (左：幼虫、右：成虫)

防除対策

- 1 オオタバコガの幼虫は、生長点付近の茎葉や果実、花蕾などを加害する。その周辺を中心に観察し、被害の早期発見に努め、防除効果の高い若齢幼虫を対象に薬剤散布を行う。
- 2 ハスモンヨトウの幼虫は食害量が多く、成長すると薬剤の効果が悪くなるので、圃場をよく観察し、若齢幼虫までに防除を行う。
- 3 ウリノメイガの老齢幼虫は果実も加害するので、若～中齢幼虫による葉の食害痕や綴りが確認されたら防除を行う。
- 4 薬剤を散布する際は、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に行う。
- 5 薬剤抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統の薬剤は連用しない。
- 6 施設栽培では、開口部や出入口を防虫ネット（4mm以下）で被覆すると、成虫の侵入を防ぐことができる。

☆ 農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31) ☆

【利用上の注意】

- ・ 農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・ 農薬使用の際には、(1) 使用基準の遵守 (2) 飛散防止 (3) 防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

